

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2672100027
法人名	社会福祉法人 北星会
事業所名	グループホーム天橋の家
所在地	京都府宮津市字惣421-1 (電話) 0772-20-3029

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年4月6日	評価確定日	平成21年4月30日

【情報提供票より】(平成 21 年 2 月 28 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 31 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8人, 非常勤 1 人, 常勤換算	7.35人

(2) 建物概要

建物構造	RC造り	
	2 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(2 月 28 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.7 歳	最低	77 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮津武田病院・小西歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人、北星会が運営する当該ホームは、古くから地域に根ざし福祉に取り組み地域密着型特別養護老人ホームや認知症サービスなどが併設されています。当該ホームは、特養を改築された建物で広く明るく大きな窓から見える山々の景色は、季節の移り変わりが楽しめます。職員は地域や家族の繋がりを大切に日々話し合いを持ち、ホーム独自の運営方針でもある「第2の我が家」を作ることに取り組み、利用者からの要望や希望に添えるように日々のケアに努めています。職員は明るく、笑顔で仕事ができるように毎日心がけ連携も良く取れています。老人会との交流が出来るように、主任職員が老人会の役員会に出向きホームを理解してもらえるように話し、体操や道路清掃など一緒にできるようになりました。地域の中にも溶け込み始め、毎日を穏やかに楽しく過ごされているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題評価であった地域との付き合いは、主任職員が老人会でホームの話をし、一緒に自治会館やホームで体操をしたり道路清掃に参加し交流に努めています。また、優先順位をつけ、1つずつ改善に向けて取り組んでいます。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目 ②	今回の自己評価は1月下旬より週に1回の会議で項目ごとに話し合い、欠席者には白紙の自己評価票を配り意見を書いてもらい、全職員の意見をまとめました。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目 ③	家族、自治会長、民生児童委員協議会、地域包括支援センター職員、法人事務局長などが参加する運営推進会議を2ヶ月に1度開催しています。ホームの行事活動報告や職員の移動、研修、実習生の受け入れ、ボランティアの活動報告などをして、参加者からのホームの評価や助言を頂きサービスの向上に活かしています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目 ④	年に2回の家族懇親会等を通じて出来るだけホームに来てもらえるように取り組んでいます。来訪時には、直接コミュニケーションを取り、言いやすい雰囲気で見聞や要望を聞いています。また、ホーム入口には、意見箱の設置もしています。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会や老人会に特別会員として加入し、盆踊りなどに参加しています。小学校に雑巾を寄贈したり、保育園の運動会を見学に行ったり、併設の施設にお遊戯を披露してもらう時に一緒に見に行くなど交流に努めています。また、近隣の喫茶店や地域での買い物をして顔なじみになっています。老人会にのの方々と一緒に体操や道路清掃に参加しています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念と三つの誓いを基に、ホーム独自の理念、運営方針を開設時に職員で話し合い作りました。「ぬくもりと安らぎのある第2の我が家」を目指し家族との交流、地域とのつながりを大切にできるようにとの思いを込めて作られています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム事務所の入り口に掲示しています。誰もが目に着き、いつも意識しながら取り組んでいます。また、毎月のカンファレンスや行事計画作成時に理念に基づいたケアができるように話し合い取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や老人会には、特別会員として加入しています。盆踊り大会や保育園の運動会に見学に行ったり、交流を図っています。また、老人会にホームを知ってもらえるように働き掛け、老人会との行き来が始まり、自治会館やホームで開催される体操や道路清掃を一緒に行っています。小学校には、手縫いの雑巾を寄贈し、交流に努めています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、1月下旬より週に1回の職員会議で項目ごとに話し合い、欠席者には白紙の評価票を配布し意見を記入してもらい、全員職員の意見を集約し主任がまとめました。改善点を把握しながら、優先順位をつけ一つずつ改善に取り組んでいます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、自治会長、民生児童委員協議会、介護相談員、地域包括支援センター職員などが参加する運営推進会議を2ヶ月に1度開催しています。ホームの行事活動報告や利用者の様子・研修状況などの報告をし、ホームの評価や助言などを参加者から意見を頂いています。自治会長からも地域の情報を頂き行事の参加に繋がっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が連携を取っています。担当者の来訪があったり、運営推進会議の議事録を持参して見てもらい相談をしています。市の職員が包括支援センターの職員を兼ねており、認知症の研修としてホーム会議に来てもらう予定をしています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	行事予定やホームからのお知らせ、利用者の誕生日、行事の様子などの写真を載せた「天橋の家だより」を毎月発行しています。便りは家族がホームに来てもらえるようにあえて手渡ししています。出来るだけ多くの家族に来訪してもらい、直接コミュニケーションを取りながら報告しています。また、預かり金は、3か月に1回、家族に出納帳を確認してもらい、サインをいただき、1部保管用に渡しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に意見箱を設置しています。年に2回の家族懇親会には、ほとんどの家族の参加があり、意見が出た時には、職員で話し合いすぐに対応しています。毎年11月の終わりには、大掃除と食事会を兼ねた懇親会を開催し、話しやすい雰囲気でのコミュニケーションを取っています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年間に異動はありましたが、退職者はおらず馴染みの関係でのケアが来ています。また、利用者と一緒に異動した職員に会いに行くこともあります。急なシフト変更にも職員同士が助け合う関係が築かれており働きやすい環境ができています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士の資格修得の支援や季節に応じた研修に参加しています。また、認知症介護実践者研修に全職員が受講できるように計画したり、外部研修には、出来るだけ参加できるように勤務調整をしています。研修に参加した職員は、伝達研修を行っています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京都府下に参加するグループホーム連絡会に参加しています。交換研修やグループホームワークでの意見交換、ホームでの疑問点や相談事を話し合いサービスの向上に努めています。また、近隣にグループホームが出来たら見学に行き交流できるように努めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、出来るだけ家族や利用者に見学に来てもらっています。リビングで利用者とお茶の時間を一緒に過ごしてもらったり、家庭訪問をして家族からの情報も多く頂いています。また、入居後は、利用者とのコミュニケーションを多く取り、家族の来訪や協力も得ながら少しずつ馴染んでもらえるように工夫しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来るだけ利用者と職員と一緒に行動できるように心がけています。一緒に生活する中で、地域のことや切干大根・梅干し作りなどを教えてもらっています。喜怒哀楽も自然な流れで受け止め支え合う関係を築いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情から気持ちを汲み取ったり、家族に聞いた情報を基に、意向の把握に努めています。センター方式を利用し始め、カンファレンスで話し合っています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に家族の参加のもと、サービス担当者会議を開催しています。利用者の思いや希望を聞きながら、2か月に1度のカンファレンスでケアの内容を話し合い、介護計画に活かしています。また、かかりつけ医の情報も取り入れています。	○	2回目以降に介護計画を立てるときには、カンファレンスの内容をケアの内容の検討だけではなく、利用者・家族の意向を踏まえ、介護計画の目標についてなど全体を検討する話し合いとなり、チームで作る介護計画となることを期待します。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日のミーティングや2か月に1回のカンファレンスでケアの内容を話し合いをしています。介護計画の期間は6ヶ月と決めてはいますが、定期的な見直しが確実にはできていません。状態の変化があったときには、随時見直しをしています。	○	ミーティングやカンファレンスでの話し合いが、介護計画の見直しや立案に繋がっていない状況です。職員の利用者担当制なども取り入れ定期的に見直しをされることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者ひとり一人の希望や要望に応じたケアができるように取り組んでいます。近隣の喫茶店にコーヒーやケーキを食べに行ったり、ホーム入居前に利用していた併設のサービスのレクリエーションに週に1回程度参加しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望を聞き、以前のかかりつけ医や歯科医に継続して診てもらっています。往診もかかりつけ医に来てもらっています。通院時には、必要に応じて職員も同席しかかりつけ医から情報を得ています。急病や転倒などの急を要する時には、併設の特養の看護師の協力も得ています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホーム利用前には、日常的に医療が必要になったときにはホームで対応できないことを説明しています。重度化された場合は、家族とかかりつけ医と職員と話し合っています。状況に応じて、併設の特養も申し込むなど退居後の施設についても家族と相談しています。	○	ホームとして重度化したときの考えや指針を文書化したものを作成し、家族にもわかりやすく説明できるように、取り組まれてはいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報などの記録物は事務所の鍵の掛かるロッカーに保管しています。会議や伝達研修で、利用者との接し方や言葉使い、声のかけ方などを話し合っています。方言も大切に、穏やかでちょっとした心遣いに気を配るように努めています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から睡眠まで、一人ひとりの希望に合った生活を支援しています。車椅子の利用者には、特に声掛けを行い利用者の希望や要望に応じた生活ができるように支援しています。外出の希望が多くあり、出来るだけ希望に応じて外出できるようにしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は、毎回記録しています。夏場の水分は、特に気をつけ多く取れるように配慮しています。また、特養の栄養士に相談したり、アドバイスをもらいながらバランスの良い献立を立てています。嚥下や咀嚼の状態に応じた食事を提供しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓や大きな窓があり明るく、窓から見える景色の山々は季節の移り変わりが楽しめ、テレビの前や廊下などにソファが多く設置され、一人や利用者同士などゆっくりと過ごせるように配慮しています。リビングには、利用者と一緒に食事の準備などができるように調理台が設けてあったり、和室には、こたつがあり昼寝やゆっくりと過ごせるように工夫しています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていたものを出来るだけ持ってきてもらえるように説明しています。時計やテレビ、ソファ、カレンダーなどを家族と相談しながら持ち込んでもらっています。また、利用者の希望があれば、たたみを敷けるようにしています。		